

最先端の工法に驚き

重機に乗り込み、操縦方法などについて説明を受ける高校生
 〓 神戸町西座倉



計データを重機に入力して制御する「i-Construction」技術を紹介。生徒たちは、実際の3D設計データを見たり、工事途中の盛り土の上を歩いたりして最先端の工法を肌で感じた。

また、実際の工事で使われているバックホーやブルドーザーなどの重機にも試乗。西尾咲音さん(15)は「想像したよりもいろんな現場でコンピューターが使われていて驚いた」と話していた。

(山田雄大)

東海環状道 岐阜農林高生が見学 大野・神戸IC

本巣郡北方町北方、
 岐阜農林高校環境科学
 科1年生40人が20日、
 神戸町西座倉の東海環
 状自動車道(仮称)大
 野・神戸インターチェ
 ンジ(IC)などの工
 事現場を見学し、最新
 の技術を使った工法を

学んだ。
 同科では、毎年1年
 生が道路や河川工事
 の現場を見学し、特
 に環境に優しい工法
 や最新の土木技術な
 どを学んでいる。今回、
 大野・神戸ICの土
 台となる盛り土工事現
 場では、監理技術者の
 高木利昌さんが、小型
 無人機「ドローン」を
 使って作成した3D設

計データを重機に入力して制御する「i-Construction」技術を紹介。生徒たちは、実際の3D設計データを見たり、工事途中の盛り土の上を歩いたりして最先端の工法を肌で感じた。